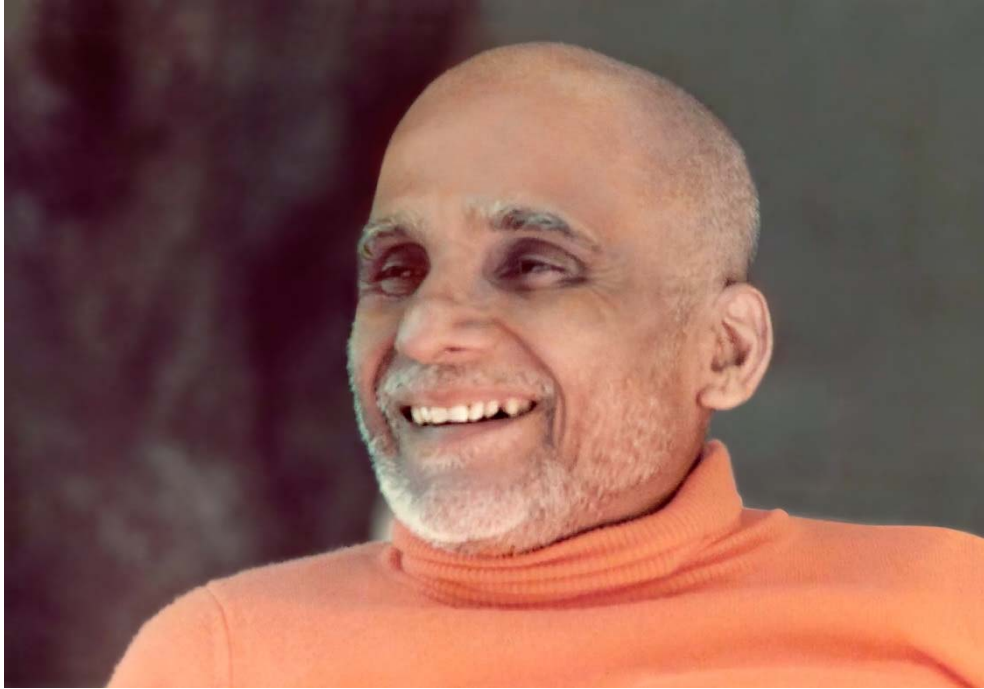


イエス・キリストの降臨

The Incarnation of Christ

2022/04/25 版



スワミ・クリシュナンダ 著

The Divine Life Society

Sivananda Ashram, Rishikesh, India

ウェブサイト： <http://www.swami-krishnananda.org>

他の和訳： <https://yogajbooks.wordpress.com/>

(1997年クリスマスイブにされた講話)

この世に一人の人間が生まれる、誕生というものがあります。これとは別に、神の化身がこの世に現れる降臨と呼ばれるものがあります。どちらも、ある種の誕生には違いありませんが、両者がこの世界に現れる構造パターンおよび目的はまったく異なるものです。

人間は誕生の時に自然界の力、宇宙の生命力から切り離され、人格意識という自己肯定の自我を持つ、個体として存在する世界に投げ入れられます。これが、人間がこの世界に生まれてくるということです。しかし神の化身の場合は全く違います。化身は自然の力から切り離されたものではなく、特定の目的を達成するために、言うなれば、宇宙の潜在能力が凝固、凝集したかたちで地球に顕現したものです。

現れる化身の種類は、その使命に適したものになります。キリスト教神学では、神の化身は一人だけであり、神の子であるイエス・キリストが、一度だけ、天国の総体として降臨するとしています。しかし東洋の伝統は、無限なる神の存在は太陽の光のごとく、無数の光線として顕現することが可能であり、神の化身の現れの度合いは、降臨する理由によって決まると考えます。

今日はキリストの降誕を記念する神聖な日です。言うなれば、燦然たる輝きが肉体をまとい、私たちが「天にまします我らの父」と呼ぶ存在が、神の力のすべてを持って、天より地球上に降臨したのです。そして化身は、まさしく神そのもののように生きます。化身には友人も親戚も所有物もいっさいありません。化身は、神がそうであるように、まったくの独りです。神は友人を必要としません。神は身内を必要としません。神に所有物はありません。神にあるのは神のみです。

この世における、そのような神の化身は、とても孤独な存在です。この「孤独」という言葉の解釈には注意が必要です。社会的に孤独でもありますが、それは靈的に不二という意味で孤独なのです。化身は人々を救いますが、人々と交わることはありません。道具を使わずして万人に光を照らし、悲しみを取り除くのです。空に輝く太陽が、その働きのために道具を持たないように、化身はその存在そのものによって、物事を成し遂げます。太陽は、地球を照らし、熱を与えるために、どのような道具も使いません。太陽の存在そのものが光であり熱なのです。神の化身についても同じことが言えます。化身の存在そのものが力です。この力とは政治的権力のように、社会に認められた結果では

ありません。化身が行使する権威は、人々の投票によって与えられたものではありません。その力を持って降臨してくるのです。

人は生まれるとき、金持ちや権力者として誕生しません。生まれてくる子供に特別な力はなく、どの子供も同じです。王様の子供も乞食の子供も、人間としての特性は同じです。王として生まれてくる子供も、乞食として生まれてくる子供もいません。社会的状況が子供の成長と経験を左右します。しかし化身の場合、社会的状況は影響しません。影響の方向はその逆です。化身が、その人格を取り巻く社会的状況を左右するのです。

化身の周りでは様々な変革活動が起きています。太陽が昇り、日の光が射すと、地球上では驚くべき活動が自然に始まります。朝日が昇るとどうなるでしょうか。すべてが目覚め、活気づきます。木の葉さえもが、東の空に昇る大きな力を前にして喜び、微笑みます。日の出を告知する必要はありません。キリストの来臨についても同様のことが言えます。キリストの来臨は、父なる神を忘れてしまった神の被造物に、神自身を知らしめるために神が顕現する出来事の宣言です。

社会状況が化身の働きを決定するものではありません。繰り返しますが、化身の人格が、化身を取り巻く社会状況を決定するのです。化身は、突然に吹く強風、旋風のごとく現れ、すべてを必要な方向へと押しやります。化身の力はどこから来るのでしょうか。イエス・キリストのように、人間の姿をした、肉体的には弱々しい一個人が、これほどの権威と力を行使するのです。この力はどこから来るのでしょうか。それは、この世界の隅々から来ます。王に賛辞を呈する家臣のように、全宇宙の隅々から敬意が表されるのです。

化身には宇宙の天使を呼び寄せる力があります。ある時、キリストは言いました。「わたしが父にお願いできないとでも思うのか。お願いすれば、父は天使の軍を今すぐ送ってくださいであろう。しかし、御心が行われるのだ」。あらゆる存在レベルの、天の御使いは、キリストの御業^{みわざ}のために現れる用意ができていたために、キリストを人の子 (the Son of Man)、あるいは神の子と呼ぶのです。神の御胸より現れたために神の子なのです。神の永遠なる潜在力のすべてを化身は有しています。キリストは人の子とも呼ばれますが、「人の子 (the Son of Man)」と書くときは、必ず大文字の M を使いますが、これは、ある特定の人の子ではなく、人類全体を意味しているからです。

人類の叫びが、化身という形で神を呼ぶのです。必要が感じられるとき、神はそれに応えます。人々の暮らしのなかで、神聖なものすべてが真っ向から否定されるような大きな変動がなくてはなりません。すべてが機械的、慣例的なものとなり、祈りも機械的なものになる。神が単なる概念となり、宗教も慣例だけの型にはまったものになる。機械的な宗教が人を支配するようになると、神の精神が失われ、神の理法に反する動きの混乱から人々を救済するために、神が降臨するのです。

化身の力は神の力です。人間と神の間にはとても顕著で残念な違いがあります。化身がすべての角度から物事を見るのに対して、人間は一つの角度からしか見ることはできません。二つの目しか持たない人間は、目の前しか見ることはできません。人間は自分の後ろや真横を見ることはできませんが、化身に死角はありません。すべての出来事は化身の存在によって起きています。いかなる場所で、いかなる方向に吹く風も、それは空にある太陽の働きによるものです。海面に波が立ち、風が吹き、雲が形成されて雨が降るのは太陽の働きです。これは完全なる活動です。神の活動は総体的な活動であり、化身の活動も同じです。

イエス・キリストがこの世で神を讃えるためにしなかったことは何一つありません。キリストの行動、話した言葉、身振りのすべて一つ一つが、人間の心には未知のことでした。私たちが神を理解できず誤解するように、私たちはキリストをまったく理解できなかったのです。

偉大な人間であるほど世界から評価されず、また、世界を必要としなくなります。これらは、私たちが神の化身の特性を受け入れようとするときに、心に留めておかなければならない事柄です。人間に化身を理解することはできません。「人知ではどうてい測り知ることのできない神」と聖書は言います。理解とは人が持つ内的な道具であり、それは五感による知覚を合成して一種の解釈を作り出し、すべてを知ったと勘違いします。人間が知っているのは現象であり、見掛けから成る世界ですが、化身が見ているのは本体、神の現れです。化身はあらゆる所に神を見ますが、人間に見えるのは五感の対象だけです。人間には相対するものしか見えませんが、化身は神の存在だけを見えています。人間はすべてに時間の経過を見ますが、化身はすべてに永遠を見ます。これが神の化身と人間の違いです。

神の被造物^{せかい}は、神の至福と美が現象世界として現れたものです。神の創造世界は、人間に与えられた災いでも呪いでもありません。神が創造的行為によって触れるものには、

すべて神の要素が存在しています。人間の視点、五感による知覚の観点では、すべてが死と破壊という本性を有しています。しかし神の化身の視点では、すべてに神が存在しているため、すべてが永遠の動きであり、時間を超越したものの働きしか存在していないのです。

人は世界の中に醜いものを見ますが、神の化身は美を見ます。あらゆる所に神を見ると、あらゆる所に敵対者を見るのでは大違いです。イエス・キリストに敵対者はいませんでした。キリストは、無知がゆえに苦しむ人々だけを見、崇高な教えによってその人々を救済するためにやってきたのですが、当時の人々には理解されませんでした。

キリストの降臨を取り巻く状況には様々なものがありました。それは福音書に記されていますが、福音書に記されていること以外にも、当時の状況やキリストの生涯が世界全体に与えた影響などから推測できることもあります。

キリストの生涯は短いものでしたが、世界がキリストを忘れることはないでしょう。彼が神の名のもとに行った驚くべき言行と奇跡ゆえに、空に太陽と月が輝く限り、キリストの名は記憶に残ることでしょう。時間のプロセスに永遠が入るとき、まるで鉄が金に変わるかのごとく、この世界で起こることがすべて奇跡のように見えるのです。キリストは水をワインに変え、死人を生き返らせ、病人を健康にし、苦しむ人間の絶望感に神を吹き込むことができました。これが化身の生き方です。世界の出来事を通して行われる神の指の働き、それが神の化身です。

毎年クリスマスの時期は、私たちが生まれながに有しており、それと共に生き、この世を去るときにも共にあらねばならない、偉大で神聖なる天性を思い出す機会なのです。神があなたと共にありますように。

— OM —